

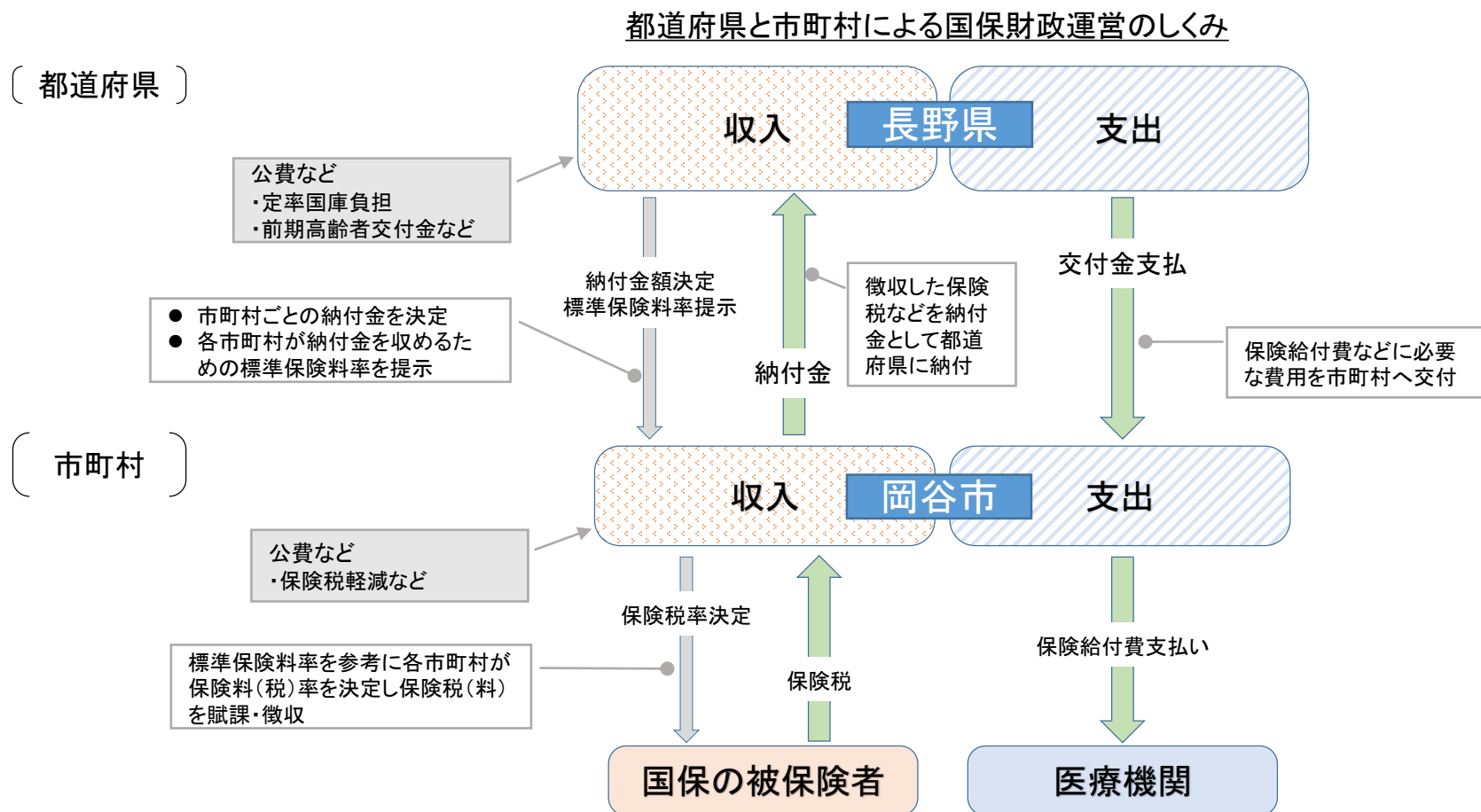
保険税率算定について 岡谷市国保の状況について

令和7年12月24日

岡谷市市民環境部医療保険課

国民健康保険事業(財政運営)のしくみ

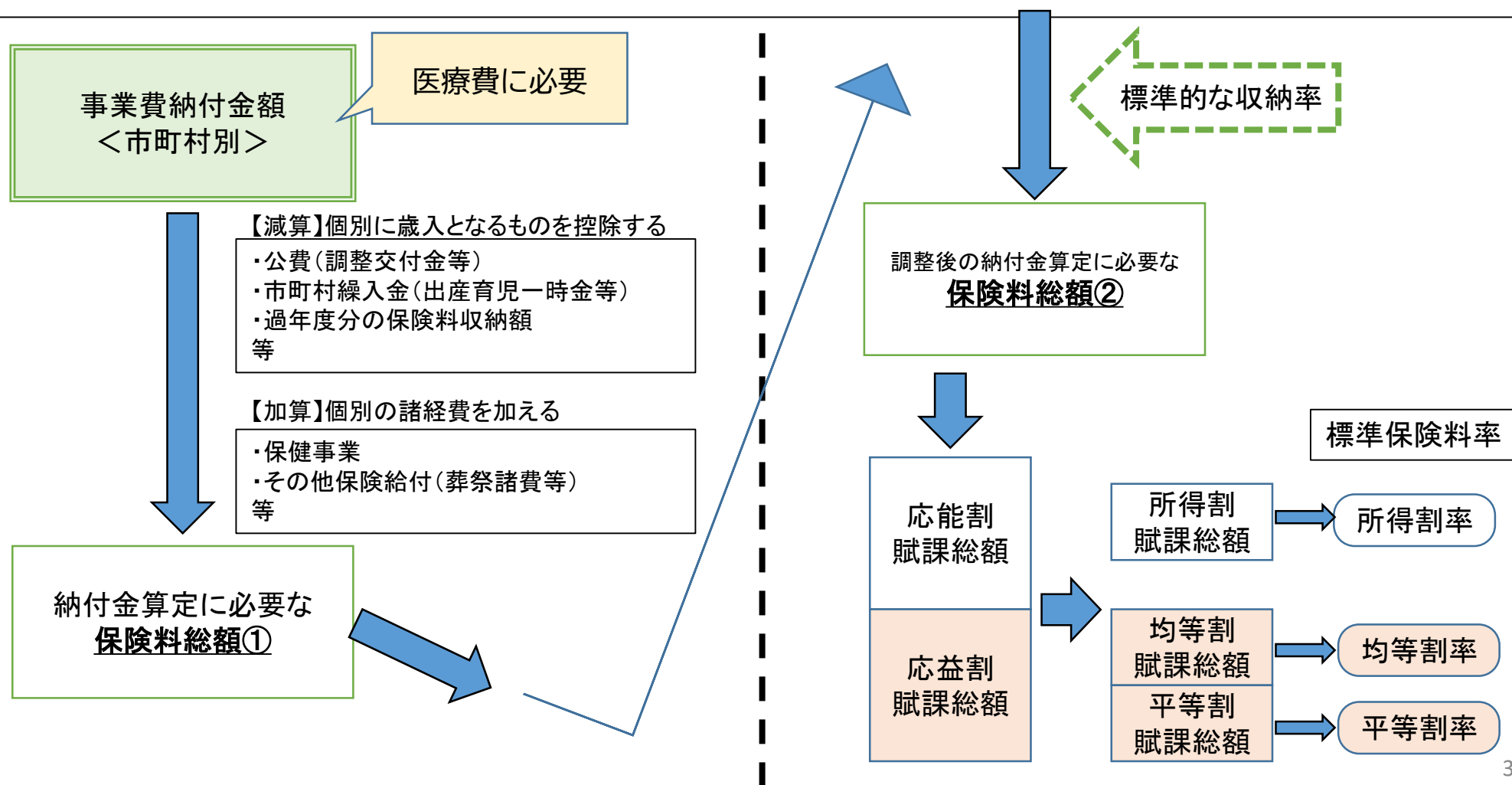
- 平成30年度の国保制度改革(都道府県単位化)により、県が財政運営の責任主体となり、市町村ごとの国保事業費納付金の額を決定するとともに、保険給付に必要な費用を全額市町村に支払う(交付金の交付)しくみとなっている。
- 市町村は、納付金の額とともに示された標準保険料率を基に保険料(税)率を設定し、納付金を県に納入する。



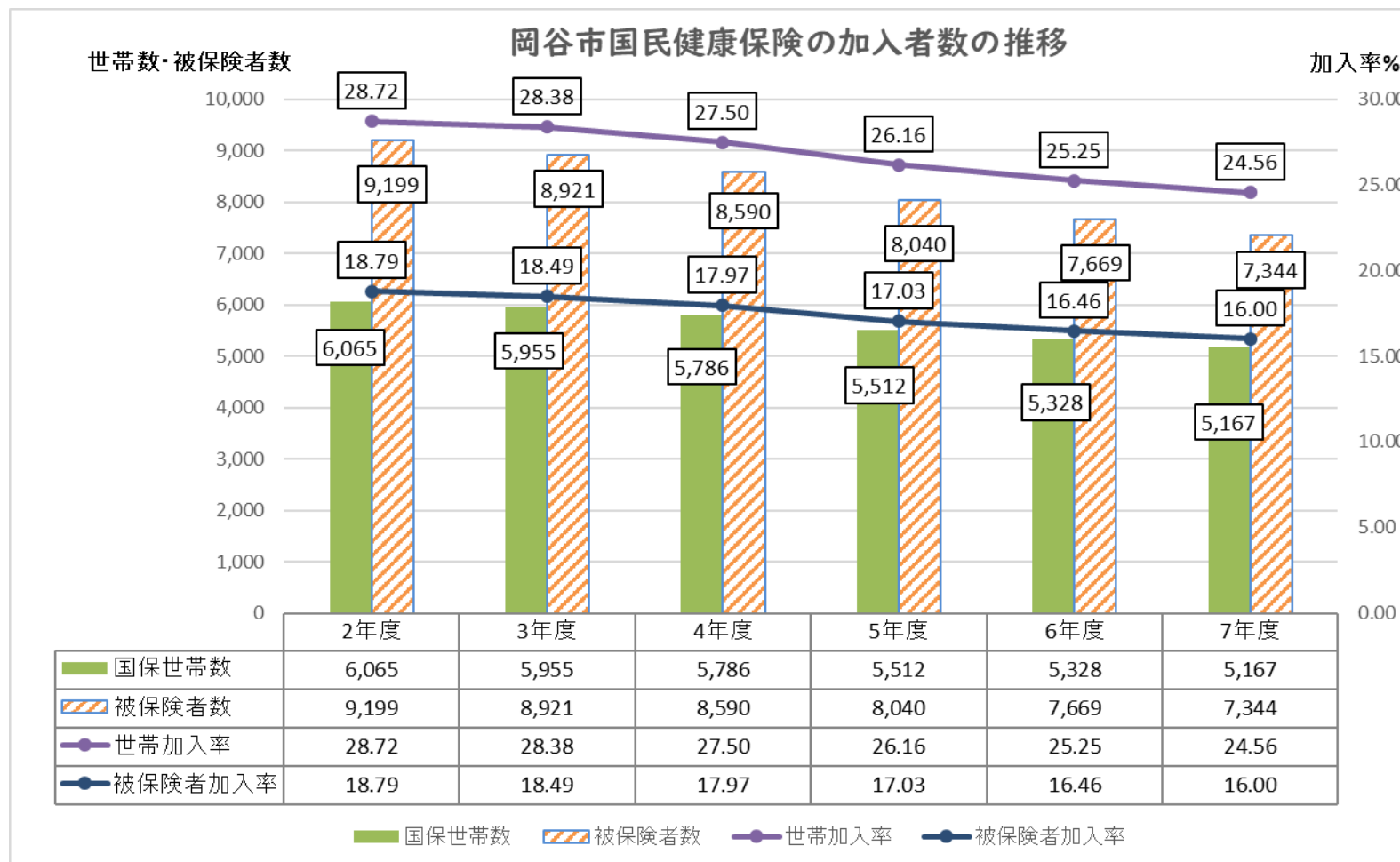
市町村別標準保険料率の算定

○都道府県は、医療分・後期高齢者支援金分・介護納付金分の納付金額に応じ、それぞれ分けて標準保険料率を算定する。
その際、下記の保険料率を算定する。

●市町村標準保険料率：都道府県内統一の算定基準による市町村ごとの保険料率の標準的な水準を表す



(1) 岡谷市国保加入者数の推移



※加入率の計算に使用している世帯・人口は毎年10月1日現在(住基人口)
被保険者数等は年度平均。7年度は4月～9月の平均。

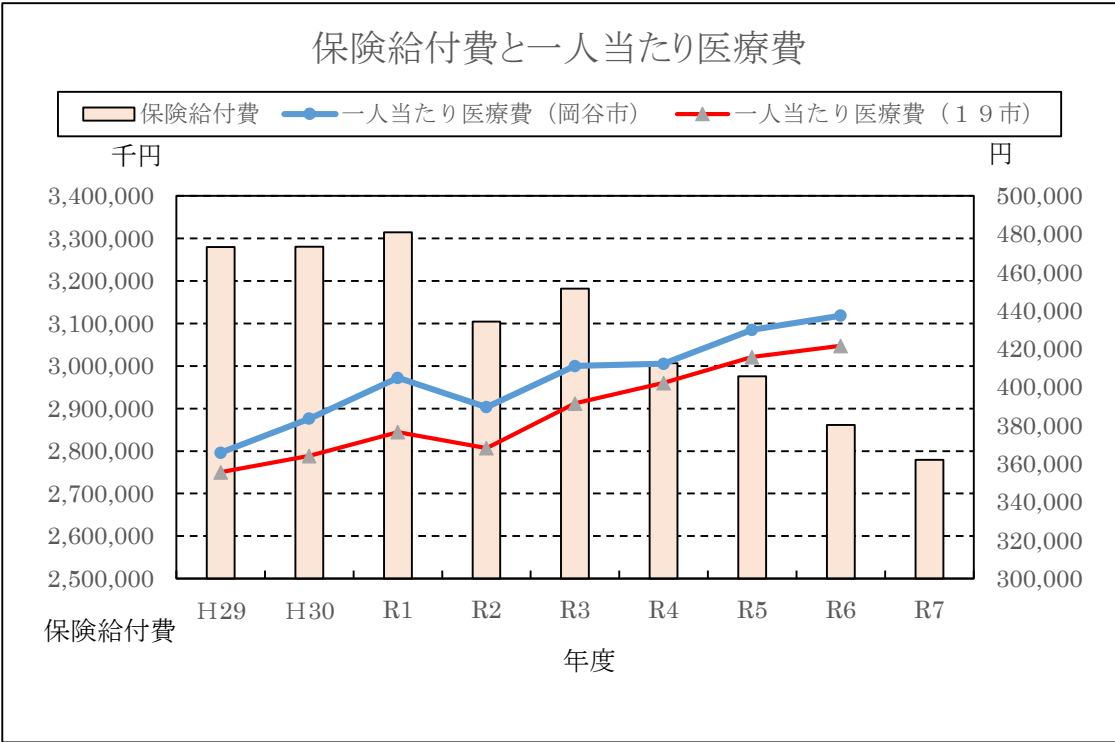
加入者数の推移は減少傾向にあります。社会保険の適用拡大や後期高齢者医療保険制度への移行が増えていることが主な要因と考えられます。減少は今後も続くことを想定しています。

(2) 保険給付費と一人当たり医療費

平成20年度から後期高齢者医療制度が始まり、医療費が比較的高い75歳以上の被保険者がこの制度に移行したため、増加し続けていた保険給付費は一旦、横這い傾向になりました。

以降、平成26年度をピークに減少が続き、令和2年以降は新型コロナウイルスの流行による受診控え等の影響、国保加入者の急激な減少により、給付費総額は減少が続いています。

対して、岡谷市の一人当たりにかかる医療費(青線)は増加傾向が続いており、19市平均よりも高い金額で推移しています。



※令和7は見込み (千円)

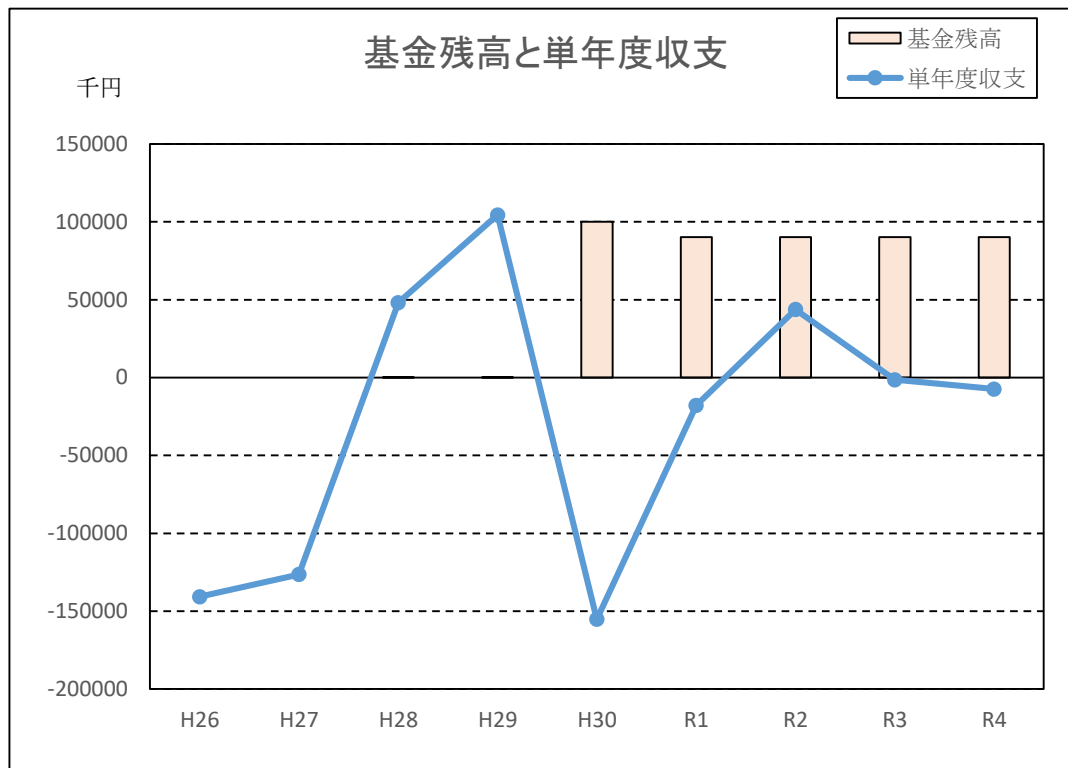
	平成29	平成30	令和1	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
保険給付費	3,279,562	3,280,539	3,314,114	3,104,352	3,182,230	3,006,976	2,975,938	2,861,491	2,779,352
一人当たり医療費 (岡谷市)	365,765	383,607	404,955	389,631	411,092	412,278	430,035	437,463	
一人当たり医療費 (19市平均)	355,555	364,152	376,557	368,204	391,527	402,281	415,828	421,687	

(3) 基金残高と単年度収支

本市の国保は、保険給付費等の支払いのための資金が不足し、平成13年度から継続して単年度収支が赤字となり、平成15年度以降は基金で赤字をうめてきました。

平成24年度に税率改定、平成24・25年度に5千万円ずつ合計1億円の基準外の繰入れを行い黒字になりましたが、平成26・27年度は赤字、平成28・29年度は黒字、平成30年度は赤字となっています。

基金は平成3年度に3億円で創設され、平成14年度には5億円近くになりましたが、その後の取り崩しによって、年々減少してきました。平成23年度には、大変厳しい財政状況であることから、全額取り崩しました。また、平成30年度には、前年度の繰越金より1億円の積立を行いました。令和元年度に1,000万円を取崩しましたが、令和2年度以降は安定した収支となっているため、取崩しはしていません。



※「基金」は、一般家庭の預貯金に相当するものです。

(千円)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
基金残高	0	0	100	100	100,100	90,175	90,210	90,246	90,274
対前年度 基金残高増減	0	0	100	0	100,000	-9,925	35	36	28
単年度収支	-140,660	-126,406	48,137	104,426	-155,168	-17,871	43,718	-1,383	-7,354

(4)決算状況 <決算の推移> (歳入・歳出合計と主な決算状況)

(千円)

	歳入 合計	歳出 合計	差引 残高	歳入のうち国保税、実質歳入以外			単年度 収支	基金 残高
				国保税	前年度 繰越金	基金 繰入金		
令和3年度	4,539,364	4,438,015	101,349	885,229	102,768	0	△1,383	90,246
令和4年度	4,326,158	4,232,191	93,967	850,118	101,349	0	△7,354	90,274
令和5年度	4,250,813	4,150,448	100,365	822,473	93,967	0	6,430	90,307
令和6年度	4,118,857	3,986,028	132,829	810,747	100,365	0	32,505	90.348
令和7年度 (見込み)	4,017,480	3,888,010	129,470	772,663	132,829	0	△3,078	90,620
令和8年度 (見込み)								

(5) 基金残高と単年度収支

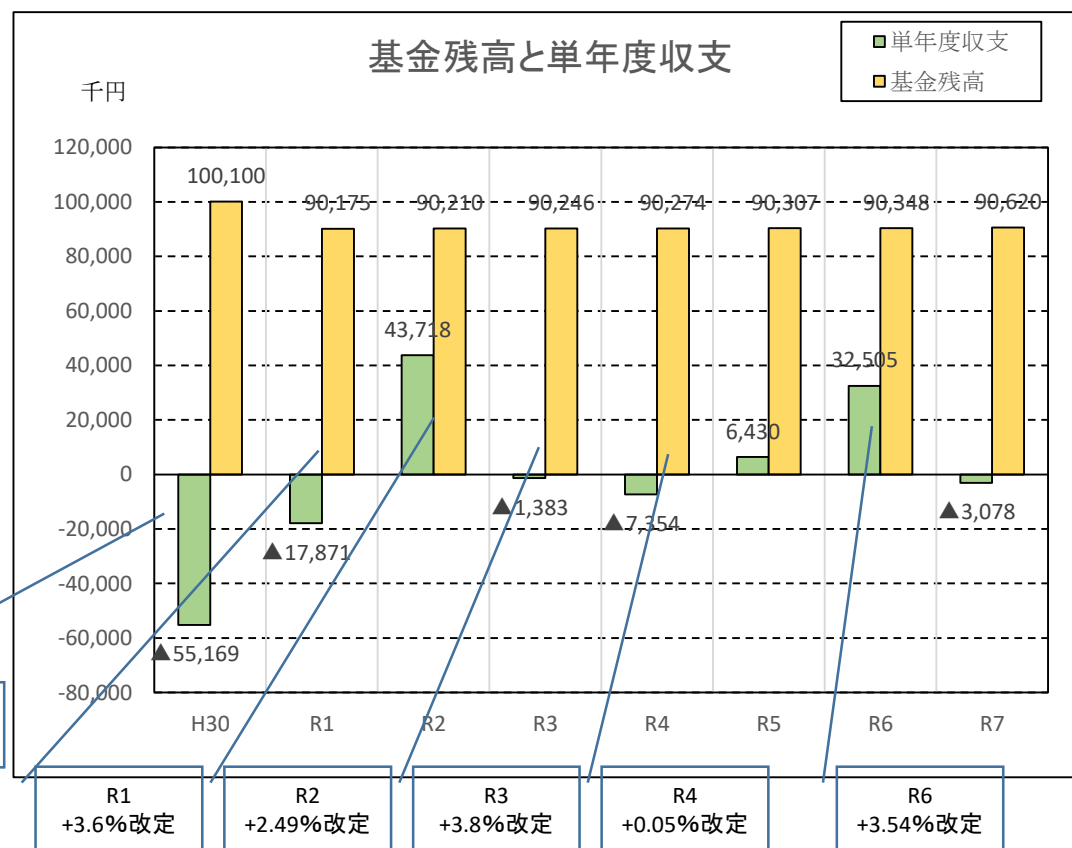
(千円)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
基金残高	100,100	90,175	90,210	90,246	90,274	90,307	90,348	90,620
対前年度 基金残高増減	100,000	△9,925	35	36	28	33	41	272
単年度収支	△55,169	△17,871	43,718	△1,383	△7,354	△6,430	32,505	△3,078

1億の積立

1千万の
取崩

H30
+2.38%改定



(6) 国民健康保険税の調定額・収納額(見込み)の推移

【現年分】

年度	改定	予算額	調定額	収納額	収納率	収納未済額
令和元年度	+3.6%	898,573千円	905,533,900	863,758,312	95.4%	41,775,588
令和2年度	+2.49%	843,207千円	893,388,300	853,406,206	95.5%	39,982,094
令和3年度	+3.8%	860,030千円	887,334,400	849,433,113	95.7%	37,901,287
令和4年度	+0.05%	824,507千円	846,670,600	820,189,804	95.5%	26,480,796
令和5年度		784,834千円	839,566,500	792,953,120	94.4%	46,613,380
令和6年度	+3.54%	749,769千円	825,354,800	777,553,652	94.2%	47,801,148
令和7年度 (見込み)		721,146千円	782,397,000	737,018,000	94.2%	45,380,000

加入者数の減少に伴い、調定額、収納額は減少を続けています。

また、軽減を受ける概ねの対象である、世帯所得200万円以下の世帯が66%を占める状況からも、今後、社会保険の適用拡大の影響で加入者の減少が続き、加入者の属性が変化するなかで大きな所得の伸びは期待しづらい現状です。

参考：岡谷市と県内19市の比較

令和6年度事業年報及び仮係数算定資料より

項目		岡谷市	比較
年齢構成	65歳～74歳(前期高齢者)の割合	48.2%	19市平均 46.6%
医療費水準	1人当たり医療費	437,463円	19市平均 421,687円
	医療費水準(全国平均との比較) ※年齢調整後	0.958	県平均 0.953
所得水準(医療分)	1人当たり総所得	609,293円	県平均 615,596円
	所得水準	0.990	県平均 1.000
保険料(税)水準	1人当たり保険料(税)調定額(現年)	108714,円	19市平均 100,642円